

団体名

浜松市

多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

事業費総額 2,852 千円

推進体制の整備

事業名

## 浜松市立図書館多文化サービス事業

### 事業のポイント

◇多面的な多文化サービスの立ち上げ

- ・在住外国人には地域の情報を知り、日本語学習の資料、母語資料を手にとれる場が必要である。
- ・また、支援者やともに暮らす日本人にとっても、多文化共生を理解するための資料を入手し、外国の文化に触れることのできる場が必要である。図書館をこれらの機能が備わった場所として整備し、地域での多文化共生を進める。

### 事業の背景・目的

◇図書館サービスの一つに「多文化サービス」が位置づけられている。全ての人に、必要な資料を提供し、地域の課題を解決するのが図書館のミッションでもある。

◇しかし、日本においては、公立図書館における多文化サービスや在住外国人の図書館利用は必ずしも活発であるとはいえない。

◇本事業を通じて、図書館が地域の多文化共生に果たせる役割を関係機関や当事者に知ってもらい、活用を進める。

### 事業の概要

#### ・ニーズ調査

日本人支援者や外国にルーツのある人たちから、実際のニーズを聞き取り、今後の資料収集の参考とした。

外国にルーツのある人80人（ブラジル36人・フィリピン11人他）日本人23人（日本語教育活動・多文化共生活動関係者）

#### ・外国語資料や英語多読資料の充実

外国語資料は1冊あたりの金額も高く、多言語の書誌データ作成が難しく時間がかかるが、一定期間でまとまった資料が揃えられたことは利用者の利便に大きく資するものであった。

#### ・各種資料等の多言語化

ホームページの案内・利用案内（印刷物）・各種手続きの様式・館内の多言語表示を充実させた。在住ブラジル人向けフリーペーパー「Alternativa Nishi」に広告を掲載した。

#### ・図書館ツアーとPR

平成27年2月6日(金)中国・フィリピン他7人、2月7日(土)ブラジル17人が通訳付きで図書館のサービスを体験。終了後、多言語のPRツールを作成した。

#### ・多文化サービスイベント

「図書館の多文化サービス」講演会 平成27年2月21日(土)

実践女子大学准教授小林卓氏・横浜ライブラリーフレンド加藤佳代氏による講演会を実施。参加者数36名。

「いろいろな国のことばのおはなし会」（経費対象外）を浜松市外国人学習支援センターと連携して開催した。国際課の通訳職員や教育委員会の国際交流員にも協力を得て、「英語とポルトガル語のおはなし会」（経費対象外）も実施し参加者から好評をいただいた。

図書館ツアー



「図書館の多文化サービス」講演会



ポルトガル語の図書館紹介DVD



## 事業実施における工夫点・事業の成果等

### ・在浜松ブラジル総領事館との交流・支援

調査結果や、ヒアリングなどを参考に図書館で作成した希望リストに基づき、ブラジル政府から図書資料などの寄贈や、在住ブラジル人向けPRの協力の申し出をいただいた。

### ・図書館を知ってもらう

ツアーで初めて図書館を訪れ「日本の図書館を知らなかった」参加者が利用者登録をして使い方を学ぶと、日本語学習資料や母語の図書を自動貸出機やカウンターで借りてくれた。利用方法を丁寧に伝えていくことが、利用を増やすことになると感じた。また来たい、知り合いを誘いたいといった声が寄せられた。自分のコミュニティでツアーをやってみたい、図書館のカードをつくれうれしかったという声もあった。調査やツアーを契機に、外国人支援をしている日本人への貸出につながった。日本語教育資料収集のリクエストも寄せられるようになった。

「いろいろな国のことばのおはなし会」



## 今後の課題・将来に向けての展望等

講演会では、外国人参加者から「日本の図書館が外国人住民のために努力してくれていることを知り、自分たちも日本社会のためにもっと頑張りたい」とのコメントもいただき、多文化サービスの重要性を確認することができた。

また、図書館の多文化サービスについて活動を行ってきた「むすびめの会」の方から、行政と図書館の連携ができていないというご意見をいただき、今後はより自治体内で図書館と多文化担当部局や教育委員会等、横のつながりを充実させていくことが重要だと感じた。図書館は各部局で行っているサービスや多文化共生施策をフォローする機関となりうる。

平成27年度には当助成で作成した翻訳資料を活用し、当市の国際課や国際交流協会の協力のもと、外国語の通訳をつけたブックスタート事業を開始する予定である。いろいろな国のことばのおはなし会や新規JETプログラム参加者向けの図書館ツアーも計画している。繰り返し、継続した多面的なアプローチを実施していきたい。

講演会で講師の小林卓氏が「障がい者サービスと同じで、多文化サービスは決して特別なものでない。図書館はそもそも多様で多文化な組織である」とおっしゃったとおり、今後、日本の図書館において多文化サービスが通常のサービスとして展開できるよう取り組みを続けていきたい。

図書館ツアーでわらべうた遊びを体験



## 事業担当者のふりかえり

- ⇒ 図書館の多文化サービスは、図書館だけで実施するのではなく関係団体との協力や連携が重要だと実感した。サービスを届けたい当事者へどうアプローチすれば図書館を知ってもらい、足を運んでもらえるか、またどんな資料が求められているのかなど一番重要な情報を手に入れることが大切である。
- ⇒ サービス対象者が必要とする資料の選定と、購入した資料の受入れ（データ作成をして登録を行う）が今後の大きな課題になると思われる。希望資料についての意見を直接吸い上げる場を継続的に設定したい。資料のデータ登録については、今回は業者に委託する予算を確保できたが、今後は外国語資料のデータ作成者の育成を考慮したいと思った。